

針付縫合糸＜把持のポイント＞

『針付縫合糸』は、針と糸が一体化した構造のため、誤った取り扱い方によって、適切なパフォーマンスを発揮できない場合があります。

術者が正しい知識をもって、器具を取り扱うことが、手技のパフォーマンス向上にもつながります。

ここでは、特にご留意いただきたい針付縫合糸の把持のポイントについてご紹介します。

Point① 適切なサイズの持針器を使う

持針器の先端ピッチ（先端チップの凹凸）にはいくつかのサイズがあります。

用いる針付縫合糸に適したピッチサイズの持針器をお使いください。

[注意]持針器の先端チップの破損、針折れ、糸の破断、脱落等を招く恐れがあります。

0.2mm	マイクロ用	6/0 ～10/0 の細い針付縫合糸
0.4mm	一般用	4/0 ～ 6/0 の針付縫合糸
0.5mm	一般用	3/0 までの太めの針付縫合糸

Point② 針先・針元は把持しない

針の先端部は細く繊細なため、針の根元部分は縫合糸との接合部になっているため、これらの部位を把持し、力が加わることで、手技中に予期せぬ破損を生じることがあります。

針付縫合糸は、針端部から 1/3 及び 1/2 付近での把持が推奨されています。

[注意]針折れ、糸の破断等を招く恐れがあります。

<不適切な把持の例>

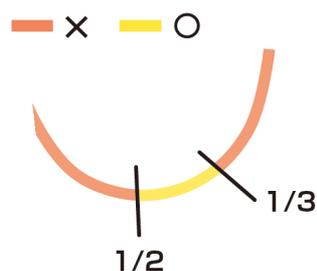


針端部での把持



針端部が潰れ、縫合糸が破断

<推奨される把持の部位>



[添付文書記載内容]

針先と糸針節後部の損傷を避けるには、糸針接合部の端から針先までの長さの3分の1(1/3)から2分の1(1/2)の部分で針を把持すること。それ以外の部分において把持すると針折れ等品質劣化することがある。